

CAMPUS HEALTH

2016.5

53 (2)

特集：保健管理業務のIT化
論文集



Japan University Health Association

CAMPUS HEALTH 53 (2)

特集・論文集

公益社団法人 全国大学保健管理協会



目 次

巻頭言

巻頭言	吉原正治	1
-----	------	---

特集 《保健管理業務の IT 化》

大学保健管理における IT 化について	久賀圭祐	3
学生・教職員一般定期および特別健康診断の同時受診システムによる効率化	潤間励子	9
健診 Web 予約システムにおける予約管理カスタマイズ	川池陽一ほか	15
学生健康管理システム構築の経験より－保健管理業務に求められるマネジメント機能－	山本真由美ほか	21
新潟大学の保健管理業務における IT 化の現状	神主京子ほか	27
名古屋大学における健診データ自動収集システムについて	石黒洋ほか	33
タブレット端末、IC カードを併用した健診データ自動取り込みシステム －健康情報データベースシステムとの連携－	鎌野寛ほか	37
健診の自動化・無人化システムについて－予算措置と IT 化による経費節減効果－	中野功ほか	43
小規模校における健診自動化の取り込み －データの自動取り込みと ID の磁気カード学生証からバーコードラベルへの移行－	三宅仁	49
保健管理と IT	當仲香	55
健診と診療データの電子化による統合	原田賢治	61

一般投稿論文

新潟大学の医療系学生における流行性ウイルス感染症（麻疹，風疹，水痘，ムンプス）対策の 構築と検証	上ノ山友子ほか	67
大学生の違法薬物に対する意識調査－2014年の調査結果および2009年との比較－	布施泰子ほか	73
薬科大学女子学生における月経に関連した症状とリプロダクティブヘルスについて	山口志津子ほか	79
女子医学生における月経前症候群の有病率とその対処法に関する実態調査	小池英理子ほか	85
大学保健管理施設による正課外の食育プログラムの開発とその効果	足立由美ほか	91
大学生の食生活に関する実態調査	磯村有希ほか	97

食物アレルギーを有する学生の実態調査と食物依存性運動誘発アナフィラキシーの2例	早坂真貴子ほか	103
保健管理部門のWebサイト（ホームページ）の構成・内容と大学類型との関連について		
一関東甲信越地区26国立大学を対象とした検討一	原田賢治ほか	109
Patient Health Questionnaire-9と発達障害関連困り感	大見広規ほか	115
アスペルガー症候群当事者会の参加者における気分および生活困難の自覚とその変化	坂本玲子ほか	121
再履修学生の発達障害的な特性と先延ばし傾向に関する研究	斎藤聖子ほか	127
大学生の抑うつ症状経験時の援助要請行動のプロセスと関連要因の検討	木村真人	133
学生相談およびフリースペースの利用が大学生の精神的健康に及ぼす効果		
一交差遅れモデルを用いた縦断的検討一	入江智也ほか	139
大学新入学生の精神的健康度と消化器症状	工藤欣邦ほか	145
大学生の基礎学力と体重・運動・読書習慣の関連一2年間の追跡調査を用いて一	堀田亮ほか	151
大学における休・退学、留年学生に関する調査結果と考察一平成25年度分集計結果から一	布施泰子ほか	157
全国国立大学大学院学生の休学・退学・留年・死亡の状況について・平成25年度調査から	丸谷俊之ほか	163
報告・提言		
米国大学保健管理協会 年次学術集会（2015年）における成果報告一国際連携委員会より一	山本真由美ほか	169
南フロリダ大学の学生支援：学生相談室・障害学生支援室の視察報告	堀田亮ほか	175
学生支援の在り方：発達障害者支援から見えてくること	伊地知信二ほか	181
機関誌編集委員会からのお知らせ		191
CAMPUS HEALTH（2）投稿規定（投稿論文チェックリスト，承諾確認書）		192
あとがき		197

巻頭言

公益社団法人全国大学保健管理協会理事 吉原正治
広島大学 保健管理センター長

CAMPUS HEALTH 53巻第2号をお届けします。この号には特集「保健管理業務のIT化」11編，一般投稿17編，提言1編，報告2編が掲載されています。特集のIT化以外の内容をみますと，メンタルヘルス，発達障害，運動習慣，食生活，発育，生活習慣病，読書，月経，食物アレルギー，消化器症状，ウイルス感染，違法薬物，休学退学死亡等と，心身両面からの健康管理・健康教育・支援活動がとりあげられています。様々な話題についての最新の調査，報告，研究は，いずれも重要な内容で，すべてに言及したいところですが，紙面にも限りがありますので，ここでは特集テーマと提言について触れさせていただきます。

今回の特集テーマ「保健管理業務のIT化」ですが，保健管理とIT化に関しては，前回10年以上前の42巻（2005年3月発刊）でとりあげられています。その時のテーマは「健康管理・健康支援におけるIT化の有効活用」でした。内容はICカード，メールマガジン，感染症情報，コミュニケーション，自動健診システム，電子カルテ，禁煙化へのIT活用などでした。一般にもICカードの活用がはじまり，保健管理分野における情報共有・コミュニケーションツールとしてのIT活用が報告されています。今回の特集では，受診予約システム，健康管理システム，測定データ自動取り込みシステム，診療データIT化などの，より体系化された健診情報システムの構築の紹介が多くあります。この内容の編纂には企画編集・コーディネーター者の意図するところもありますが，広く保健管理担当者の関心や方向性を示すものでもあります。健康診断データである血圧，視力，身長体重等のもとより，エックス線，心電図などいずれもデジタル化が進み，装置から発生したデータは，通信過程を経れば，サーバーに蓄積することができます。個人IDについては，学生証，職員証等のICカードの普及も進んできています。予約システムも，一般社会では多くの分野でネット予約が普及し，いつでもどこからでも，スマートフォンからでも予約できることに慣れた方が多くなっています。様々な分野での効率化，利便化の波は大きく，健康管理・健康診断の受診者だけでなく，実施者側からも，そのニーズはますます高くなっているといえそうです。もし10年先にまたIT化に関する特集があるとしたら，どのようになるかも楽しみです。

一方，人がかかわることが必須であるところの問題や相談においても，コミュニケーションツールとして，メール，SNS，ウェブ，スマートフォンなどの活用は時代の流れとしてあります。すべてをメールやデジタル媒体で行うことはないにしても，音声情報は苦手であったり，面と向かっての話は不得手だが，メールやSNSでは意思疎通がしやすい場合もあります。これも一つにはコミュニケーションの多様性と言えるかもしれません。

本号では，提言論文として「学生支援の在り方：発達障害者支援から見えてくること」が掲載されています。著者はその要旨のはじめに「多様性を認め合い，相互に人格と個性を尊重し合いながら共に学び共に生きる環境は，人間性教育に最良の環境と言える。」と重要なポイント述べています。こ

の内容については、ぜひご一読いただければ幸いです。

「多様性」は現在の重要なキーワードと思います。広く述べますと、性別、年齢、国籍や、障害・疾病の有無などから、内的なこととして思想、信仰、価値観などの多様性もあります。異文化や多様な価値観を理解し、共感することは、必ずしも簡単とは言えない場合もありますが、その第一歩として、自分と違うものを理解しようとする気持ちを持つことが重要と思います。これからの世界はますます多様化していき、人を大切にする、多様な取り組みが必要と思います。

ここで論文のすべてを紹介できないことが残念ですが、目次からお目通しいただきたく思います。本号が皆様にお役に立つことができましたら、大変幸いに存じます。